

令和2年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



令和元年10月11日

上場会社名 株式会社ブロッコリー

上場取引所 東

コード番号 2706 URL <https://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 善之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6685-1366

四半期報告書提出予定日 令和元年10月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家、アナリスト、マスコミの方を対象

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年2月期第2四半期の業績(平成31年3月1日～令和元年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年2月期第2四半期	2,733	△1.0	340	1.5	347	1.8	277	23.0
31年2月期第2四半期	2,761	22.6	335	292.9	341	244.5	225	248.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年2月期第2四半期	31.68	—
31年2月期第2四半期	25.76	—

(注)平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成31年2月期の期首に株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年2月期第2四半期	10,486	9,352	89.2
31年2月期	10,282	9,302	90.5

(参考)自己資本 2年2月期第2四半期 9,352百万円 31年2月期 9,302百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年2月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2年2月期	—	0.00	—	—	—
2年2月期(予想)	—	—	—	24.00	24.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

令和2年2月期(予想)の配当性向は39.6%となります。

3. 令和2年2月期の業績予想(平成31年3月1日～令和2年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,100	2.1	700	△13.5	730	△12.5	530	△3.7	60.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2年2月期2Q	8,747,642 株	31年2月期	8,747,642 株
② 期末自己株式数	2年2月期2Q	372 株	31年2月期	372 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2年2月期2Q	8,747,270 株	31年2月期2Q	8,747,377 株

(注)平成30年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成31年2月期の期首に株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成されたものでありますが、業績等につきましては様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。

2.当社は、「財務諸表等規則」に従い財務諸表を作成しております。

3.当社は、令和元年8月30日に株式会社LANTERN ROOMSの株式を100%取得したことに伴い、同社を子会社化しておりますが、資産、売上高、損益、利益剰余金に及ぼす影響が僅少であり、現時点では重要性が乏しいため、非連結子会社としております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、国内外の持続的なスマートフォンゲーム市場の成長・国内家庭用ゲーム市場の順調な拡大を背景に、ゲームコンテンツ市場と関連するキャラクター市場は、世界的にも長期的に高成長が続くと見込まれております。こうした中、当社は令和2年2月期から令和4年2月期までの3ヶ年を実行期間とする中期経営計画「Go to the Next Stage 次のステージへ突き進め!」を策定し、取り組みを進めております。

このような状況下における当第2四半期累計期間（自平成31年3月1日至令和元年8月31日）の経営成績概況は、以下のとおりであります。

『うたの☆プリンスさまっ♪』では、本年に9周年を迎え『劇場版 うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEキングダム（以下、劇場版）』を公開など、記念作品や関連したイベント・商品リリースを行いました。

関連グッズにおいては、7月より株式会社ムービックと共同運営の夏季限定ショップ「SHINING STORE 2019」を開催（於：東京原宿、名古屋、福岡、大阪）、各会場及び自社通販にて限定グッズの販売を行いました。劇場版の大ヒットによる集客効果もあり、関連グッズの売上高は全体売上高・売上総利益に多大に寄与しております。なお劇場版は製作委員会案件であり、当第2四半期会計期間末において本件の収益配分は未精算のため、計上しておりません。

関連CDにおいては、アイドルグループ「ST☆RISH」7人のソロベストアルバムを企画。7作品のうち、一十木音也「I am Here.」、聖川真斗「HOLY KNIGHT」、四ノ宮那月「SUKI×SUKIはなまる!」の3作品を6月より8月にかけてリリース。加えて、8月にはゲームアプリ「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」2周年を記念した新テーマソングもリリースいたしました。これらの結果、関連CDは好調に推移し、前年同期を上回る売上高・売上総利益となりました。

ゲームアプリ『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live』は、8月に2周年を迎えた記念企画「Shining Live 2nd Anniversary」を開催、前年同水準の売上高・売上総利益を確保いたしました。

一方他社ライセンスグッズは、他社イベントの開催時期が前年と異なることから卸売上が前年を下回りましたが、一部製品において海外直生産の効果も上がり始め、採算は改善しました。また、他社ライセンスのフィギュアにおいて、クオリティの向上とブランディングの継続が奏功し、徐々に事業軌道に乗り始めており、前年同期を上回る売上高・売上総利益を確保いたしました。

次にトレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X-（ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス）』（以下、『Z/X（ゼクス）』）は好調に推移し、売上高・売上総利益共に、前年同期を大幅に上回りました。

販売費及び一般管理費につきましては、広告・宣伝に係る販促費の増加、及び中期経営計画推進に基づく人員拡充に伴う人件費の増加等により前年同期に比べ169百万円増加いたしました。

総じて、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連音楽CDや、トレーディングカードゲーム『Z/X（ゼクス）』等の利益率が高い商品群の売上が好調であること等に伴い、売上総利益率は40.3%、前年同期比6.8ポイントの大幅改善となり、売上総利益は同18.9%伸長。販売費及び一般管理費の増加を吸収出来た結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,733百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益340百万円（同1.5%増）、経常利益347百万円（同1.8%増）、四半期純利益277百万円（同23.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は7,811百万円で、前事業年度末に比べ64百万円減少しております。主な内容は、売掛金の増加197百万円、商品及び製品の増加119百万円、仕掛品の増加54百万円、その他の増加106百万円などの増加要因に対し、現金及び預金の減少541百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は2,674百万円で、前事業年度末に比べ267百万円増加しております。主な内容は、無形固定資産の増加285百万円、投資その他の資産の増加4百万円などの増加要因に対し、有形固定資産の減少21百万円であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は1,051百万円で、前事業年度末に比べ196百万円増加しております。主な内容は、買掛金の増加30百万円、賞与引当金の増加30百万円、その他の増加202百万円などの増加要因に対し、未払法人税等の減少21百万円、役員賞与引当金の減少43百万円、返品調整引当金の減少1百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は81百万円で、前事業年度末に比べ43百万円減少しております。主な内容は、役員退職慰労引当金の減少42百万円などの減少要因であります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は9,352百万円で、前事業年度末に比べ49百万円増加しております。これは、四半期純利益277百万円が計上された一方で、剰余金の配当227百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて541百万円減少し3,514百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは161百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は151百万円の資金の増加）となりました。その主な内訳は、税引前四半期純利益の計上による399百万円、減価償却費42百万円、仕入債務の増加額30百万円、賞与引当金の増加額30百万円などのプラス要因と、売上債権の増加額197百万円、たな卸資産の増加額174百万円、役員賞与引当金の減少額43百万円、役員退職慰労引当金の減少額42百万円、返品調整引当金の減少額1百万円などのマイナス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは152百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は184百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、保険積立金の解約による収入107百万円などのプラス要因と、無形固定資産の取得による支出229百万円、関係会社株式の取得による支出16百万円、有形固定資産の取得による支出13百万円などのマイナス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは227百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は241百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額224百万円、リース債務の返済による支出2百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和2年2月期通期業績予想及び配当予定につきましては、変更はありません。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたしません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成31年2月28日)	当第2四半期会計期間 (令和元年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,056,395	6,514,915
売掛金	507,174	704,624
商品及び製品	78,696	198,181
仕掛品	92,166	146,467
原材料及び貯蔵品	797	727
その他	142,599	249,330
貸倒引当金	△2,078	△2,805
流動資産合計	7,875,750	7,811,441
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,218,017	1,219,453
減価償却累計額	△214,831	△238,553
建物(純額)	1,003,185	980,899
土地	907,414	907,414
その他	131,215	137,221
減価償却累計額	△87,530	△92,790
その他(純額)	43,684	44,431
有形固定資産合計	1,954,284	1,932,746
無形固定資産	227,616	512,922
投資その他の資産		
その他	232,445	236,477
貸倒引当金	△7,546	△7,546
投資その他の資産合計	224,898	228,931
固定資産合計	2,406,800	2,674,600
資産合計	10,282,551	10,486,041
負債の部		
流動負債		
買掛金	302,207	332,635
未払法人税等	164,471	142,826
返品調整引当金	74,133	72,145
賞与引当金	44,472	75,146
役員賞与引当金	54,000	11,000
その他	215,532	418,039
流動負債合計	854,817	1,051,793
固定負債		
退職給付引当金	22,618	23,118
役員退職慰労引当金	44,816	2,666
その他	57,697	56,093
固定負債合計	125,131	81,877
負債合計	979,948	1,133,671

(単位：千円)

	前事業年度 (平成31年2月28日)	当第2四半期会計期間 (令和元年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	4,873,663	4,923,308
自己株式	△781	△781
株主資本合計	9,300,785	9,350,430
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,817	1,939
評価・換算差額等合計	1,817	1,939
純資産合計	9,302,602	9,352,370
負債純資産合計	10,282,551	10,486,041

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年3月1日 至令和元年8月31日)
売上高	2,761,643	2,733,347
売上原価	1,835,942	1,632,744
売上総利益	925,700	1,100,603
販売費及び一般管理費	589,884	759,671
営業利益	335,816	340,931
営業外収益		
受取利息及び配当金	49	70
不動産賃貸料	38,492	37,873
その他	1,455	1,253
営業外収益合計	39,996	39,198
営業外費用		
支払利息	261	167
不動産賃貸費用	33,939	32,351
その他	39	47
営業外費用合計	34,239	32,566
経常利益	341,573	347,563
特別利益		
保険解約返戻金	—	52,002
特別利益合計	—	52,002
特別損失		
固定資産除却損	169	45
固定資産処分損	12,205	—
特別損失合計	12,374	45
税引前四半期純利益	329,199	399,519
法人税等	103,862	122,445
四半期純利益	225,336	277,074

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年3月1日 至令和元年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	329,199	399,519
減価償却費	51,107	42,434
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△815	726
賞与引当金の増減額(△は減少)	30,963	30,674
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,000	△43,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	250	500
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,650	△42,149
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△1,870	△1,987
受取利息及び受取配当金	△49	△70
支払利息	261	167
固定資産除売却損益(△は益)	169	45
固定資産処分損益(△は益)	12,205	—
保険解約返戻金	—	△52,002
売上債権の増減額(△は増加)	154,595	△197,450
たな卸資産の増減額(△は増加)	△29,870	△174,646
仕入債務の増減額(△は減少)	△102,808	30,427
その他	△143,264	△10,877
小計	290,721	△17,689
利息及び配当金の受取額	49	70
利息の支払額	△261	△167
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△139,360	△143,381
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,148	△161,168
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△90,395	△13,381
有形固定資産の処分による支出	△12,205	—
無形固定資産の取得による支出	△71,091	△229,918
関係会社株式の取得による支出	—	△16,618
長期前払費用の取得による支出	△11,065	—
保険積立金の解約による収入	—	107,329
その他	60	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△184,697	△152,588
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△237,624	△224,847
リース債務の返済による支出	△3,949	△2,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△241,574	△227,723
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△275,122	△541,480
現金及び現金同等物の期首残高	3,824,299	4,056,395
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,549,177	3,514,915

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。